＼心の介護のリアルを届ける／

笑美面（えみめん）インパクト通信

発行元 ： 株式会社笑美面 インパクト推進チーム

vol.17　2026年 11月号

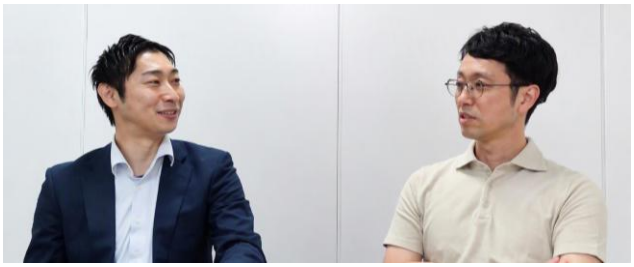
笑美面は、家族が心の介護に向き合い、高齢者が笑顔で居る社会を目指しています。本号では、笑美面がシニアホーム探しで大切にしている「家族会議」をテーマに、緩和ケア内科医の山口崇医師と笑美面営業部長の渡邊が対談。本人らしい暮らしや家族の思いをどのように整理し、納得できる意思決定につなげるのかについて伺いました。

「インパクト」とは：事業や活動によって生じる社会的・環境的にポジティブな変化や効果

介護施設探しの前に、なぜ「家族会議」を行うのか

緩和ケア内科の医師と考える、笑美面の「家族会議」の価値

　親が突然入院し、「もう自宅での生活は難しいかもしれない」。
退院後の暮らしを考えなければならない一方で、ご本人とご家族の思いが一致しないこともあります。認知症や病状の進行により、ご本人が意思を伝えられないケースも少なくありません。
　こうした状況の中で、医療や介護の現場では「その人にとって最善の選択とは何か」が日々問われています。
　笑美面が介護施設（以下、シニアホーム※１）探しにおいて大切にしている「家族会議」も、実は同じ問いと向き合う取り組みです。



対談インタビュー
笑美面 渡邊×緩和ケア内科 山口医師

　今回は、緩和ケアや在宅支援の現場で患者さんやご家族の意思決定を支援してきた山口医師と、笑美面で営業部長を務める渡邊が対談。本人と家族の思いにどう向き合い、納得できる選択を支援していくのかについて語り合いました。

※1当社が主に紹介する有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅およびグループホームをまとめて示す

「どこに入るか」ではなく、「どう暮らしたいか」を整理する時間

――笑美面の「家族会議」とは、どのような場なのでしょうか。

笑美面 渡邊(以下、渡邊)：当社コーディネーターが担う「家族会議」は、単にシニアホーム探しの条件を聞くためだけの面談ではありません。

　シニアホーム探しをされるご家族の多くは、初めてのシニアホーム探しの経験です。
　ついこの間まで普段通りに暮らしていたお父様やお母様が、入院をきっかけに身体状況が変化し、「自宅での生活が難しい」と言われ、突然シニアホーム探しが始まることも少なくありません。
　当然、不安も大きいですし、何を基準に選べばいいのか分からない方も少なくありません。

　だから私たちは、どこのホームに入るかを考える際に、まずご本人やご家族が何を大切にしたいのかを整理する時間を大切にしています。

山口医師：私はその姿勢が非常に重要だと思っています。

　医療現場でもそうですが、人は突然大きな選択を迫られると、不安が先だって冷静に何が大事なのか整理できないまま選択に至ってしまい、後悔してしまうことも少なくないと思います。

　特に病気や入院という出来事は、ご本人だけでなくご家族にも大きな不安を与えます。
　そんな時は、答えを急ぐよりも、まず思いを言葉にしていくことが大切だと思います。

　実際にお話しを重ねると、最初に出てきた「希望」と、話し合いを通じて整理して見えてきた「本当に大切にしていること」が違うケースも少なくありません。

　その意味で、笑美面の「家族会議」はホーム探しの場というより、「これからの暮らしを考えるための対話の場」であり、とても大切な時間だと感じています。

条件の奥にある「なぜ」を聞く

渡邊：私たちが「家族会議」で特に大切にしているのが、「なぜそう思うのか」をお聞きすることです。

例えば、「家から近いホームがいいです」というご希望をいただくことがあります。その条件・希望だけを聞けば、近いホームをご紹介して終わりです。
でも、「なぜ近い方がいいのでしょうか？」と伺うと、「毎日会いに行きたいから」という家族側の思いの場合もあれば、「本人が小さいころから住み慣れた土地だから」という本人側の希望が背景にある場合もあります。

表面上は同じ条件・希望でも、その背景にある思いはまったく違います。
その思いが見えて初めて、本当にその方に合ったホームを考えることができると思います。

山口医師：その「なぜ」を聞く姿勢は、医療の現場でもとても大切です。
例えば患者さんから、「家に帰りたい（過ごしたい）」と言われることがあります。でも、その言葉だけではご本人はどのような生活を想像してそういっているのかわかりません。

例えば、「元々のように自立できるようになったら自宅で過ごしたい。でも今の状態だと家では無理」と思っている方もいらっしゃれば、「介助を受けながらでも、できるならやっぱり自宅で暮らしたい」と思っている方もいらっしゃいます。そこを聞かなければ、本当の希望は見えてきません。
表面的な言葉ではなく、その背景にある価値観や思いを理解する。私は笑美面の「家族会議」にも、それに近いものを感じています。

ご本人とご家族の意見が違うことは珍しくない

――笑美面の「家族会議」とは、どのような場なのでしょうか。

山口医師：少なくないです。
ご本人は自宅での療養を希望している、でもご家族は自宅での介護への不安を抱えている、みたいなケースは訪問診療や緩和ケアでも日常的にあります。
逆に、ご家族はできる限り自宅で支えたいと思っている一方で、ご本人は家族に迷惑をかけたくないと考えているようなこともあります。
いずれの場合でも、本人・家族の間での率直な話し合いができていないことに起因することが多いと思っています。
こうした状況では、表面上の各自の希望だけをとらえていると良い結果にはつながりません。

だから私たちは、本人と家族それぞれの思いを整理しながら、本人・家族間の話し合いを促しながら、最善の選択を一緒に考えていきます。



渡邊：ホーム探しでも本当に同じです。
ご本人とご家族の希望がずれていることは珍しくありません。

私たちは、その対立を解消するというよりも、「それぞれが何を大切にしているのか」を明らかにすることを意識しています。

「なぜそう考えるのか？」「どんな不安があるのか？」「どんな暮らしを望んでいるのか？」それが整理されてくると、お互いの理解が進み、納得できる選択肢が見えてくることがあります。

「ご本人ならどう考えるだろう」を大切にする

――ご本人が意思表示できない場合はどうでしょうか。

山口医師：医療現場では非常に重要なテーマです。
ご本人が意思表示できない時に、ご家族へ「どうしたいですか？」とだけ聞いてしまうと、往々にして、ご家族の希望になってしまうことがあります。

だから私は、「ご本人だったらどう考える（どうしたい）と思いますか？」とお聞きすることが多いです。

すると、ご家族はこれまでの本人の人生や価値観を思い出しながら、「父ならこう言うと思います」「母は昔からこういう人でした」と話してくださることが多いです。
本人らしい選択を考える上で、とても大切なプロセスです。

渡邊：笑美面でも同じです。
ご本人と直接お話ができない場合でも「お父様はどんな方でしたか？」「何を大切にして生きてこられましたか？」といったお話を伺います。

すると、「そういえば父は人付き合いを大切にする人だった」「母はずっと自分で決める人だった」といったエピソードが出てきます。そこから、ご本人らしい選択を一緒に考えていくんです。

生い立ちや価値観が、ホーム選びの決め手になる

渡邊：実は私たちが「家族会議」で重視しているのが、その方の人生です。

「どんな仕事をされていたのか？」「どのような趣味を持っていたのか？」「どんな人間関係を築いてこられたのか？」そうした話は、一見するとホーム選びには関係ないように思われるかもしれません。
でも、その人らしい暮らしを考えるためには欠かせない情報です。



山口医師：私も非常に大切だと思います。
例えば、訪問診療で患者さんのおうちに伺った時に、おうちにある小物に気づいて趣味や仕事の話を伺うことも多くあります。

すると、その人に興味を示し、理解しようとすること自体が信頼関係の構築につながりますし、その人らしさが見えてくることで、その方に適したケアを考える際のヒントになります。

表面的な希望や条件だけでは見えない部分ですよね。

医師から見た、笑美面の「家族会議」

――山口先生は実際に笑美面の「家族会議」をご覧になられて、いかがでしたか。

山口医師：私が最も印象的だったのは、「どうして」を丁寧に聞いていることです。
希望や条件だけ聞くのであれば、インターネット上での空室検索の方が絶対的に便利だと思います。

しかし、「なぜその条件を希望されるのか？」「その背景にどんな思いがあるのか？」を聞いていくことで、その人らしさが見えてきます。その部分が、対人でホーム探しをすることの意義というか、大きな差を生む部分だと思います。

また、「家族会議」を通じて、ご本人だけでなく、ご家族の不安や葛藤にも向き合っていることが印象的でした。実際に見ていて、「ただホームを紹介する会社ではない」と感じました。本人や家族にとって納得できる選択を支援しようとしている。

その姿勢は、私たち医療職が意思決定支援を行う時の考え方とも近いものがあると思います。

納得できる選択のために

私たち笑美面が目指すシニアホーム探しは、単に空室を探すことではありません。

ご本人がどのような人生を歩み、何を大切にしてきたのか。
ご家族がどのような不安や願いを抱えているのか。

笑美面は、「家族会議」を通じて、その背景にある想いを丁寧に理解し、一人ひとりにとって納得できる選択を支援しています。
また、ご家族の状況や負担を深く理解することで、退院期日が迫る中でのホーム探しや、見学・契約・入居に伴う煩雑な手続きについても伴走しながら的確な支援が可能となります。

ご本人が自分らしく暮らせること。そして、ご家族が安心して「心の介護」に向き合えること。

その実現に向けて、ご本人、ご家族、そして退院支援に関わる医療・介護職の皆様とともに、より良い暮らしを考え、納得の入居に向けて伴走していきます。

【プロフィール】

山口　崇氏
甲南医療センター 緩和ケア内科 部長

手稲渓仁会病院で臨床研修・総合内科後期研修、筑波メディカルセンター病院で緩和ケア研修後、手稲渓仁会病院 総合内科・感染症科で指導医。神戸大学緩和支持治療科 特命教授を経て、現職。医学博士、総合内科専門医、緩和医療専門医・指導医。

渡邊 拓也
株式会社笑美面 シニアライフサポート事業部
執行役員兼部長

「心の介護」入居エピソード

当社サービスを通じて、入居を選択した本人やその家族のエピソードを紹介

笑美面

介護家族「心の介護」入居エピソード 63

透析と認知症のご夫婦 住まいと医療を つないだ入居支援



透析と認知症のご夫婦が入居支援で再び一緒に暮らせる日まで

「両親の希望は、できるだけ聞いてあげたいんです。
仲の良い両親揃って同じホームに入れてあげたいです」

目の不自由なお父様を支えてきたお母様でしたが認知症を発症。ご夫婦だけでの生活は限界を迎えていました。コーディネーターは、仕事を休み介護を続ける息子様と「家族会議」を実施。ご両親の人となりを伺い、透析が必要なお父様の通院体制と、ご夫婦が安心して暮らせるホームを探しました。途中お父様が急遽入院。先にお母様だけが入居する予定でしたが、当日はお母様の強い拒否により急遽、医療機関などと連携し、一時入院へ切り替えました。予期せぬ変化にも対応し、最終的にご夫婦そろって同じホームへ入居されたエピソードです。

#認知症 #ケアマネジャー #心の介護 #老老介護 #ビジネスケアラー

笑美面

介護家族「心の介護」入居エピソード 64

「絶対に家に帰る」と拒んだご主人が自ら入居を選ぶまで



退院直前で入居を拒むご主人の心を動かした「家族会議」

「主人の気持ちを一番大切に考えたいですが、治療を拒んだままでは、どんどん悪くなってしまうのではないか」

糖尿病の悪化で入院したご主人は、治療もシニアホームへの入居も強く拒んでいました。退院が迫るなか、奥様は車いすの義姉様を含めた介護を一人で背負い、不安を抱えながらも説得できずにいました。コーディネーターは「家族会議」を開き、ご主人の想いとご家族の悩みの両方に向き合いました。そして、無理に入居を勧めるのではなく、ご主人自身がこれからの暮らしを考えられるよう対話を重ね、ご本人らしく過ごせるホームを提案。その結果、ご主人は自ら入居を選択し、今では新しい暮らしに馴染まれている入居エピソードです。

#家族会議 #治療拒否 #心の介護 #医療ソーシャルワーカー #笑美面

note

フォロー・スキ♥を頂けますと励みになります!

当社の「シニアホーム紹介サービス」を通じて、介護家族がどのように大切な家族の入居を決断し、どんな変化があったのか。
そんなリアルな「心の介護」入居エピソードを中心にお届けしています。

株式会社 笑美面

シニアホーム探しに関するご相談を承っています！

お電話・ご相談 すべて 無料

0120-952-305 ※通話料無料

発行元住所：大阪府大阪市西区京町堀 1-8-33

えみめん 検索

https://emimen.co.jp/

北海道、関東、関西、愛知、広島、福岡で
24 オフィス



東証上場 TOKYO STOCK EXCHANGE LISTED JPX 証券コード9237

MSA-IS-527 ISMS-AC 認証組織：大阪本社

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

（高住連）高齢者向け住まい紹介事業者届出公表制度 届出番号：20-0078

笑美面